



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

長野県 長野市立篠ノ井西中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：大川 真澄 先生 (体操／体操競技) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■期 日：2024年10月24日(木)

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



アトランタ1996大会に体操競技で出場したと自己紹介。オリンピックでは、エクセレンス：「ベストを尽くす」「諦めない」、フレンドシップ：「友情」「チームワーク」、リスペクト：「フェアプレー」「敬意」「感謝」の3つが大切な価値として掲げられている。運動の時間は、この3つを意識して仲間と楽しく取り組もう。準備体操は、片足立ちで逆の足を膝を伸ばしたまま顔の高さまで上げるY字バランスに挑戦。次に「じゃんけん勝ち抜け」を実施し、4箇所で行ったじゃんけんし、90秒間で進んだコーンの数を競った。

○主運動等



主運動は、「新聞紙ボール運びリレー」で、タイムと順位をチームで競い合う。2人組で広げた新聞紙の上にボールを乗せて走り、折り返し地点のコーンを回って戻り、次のペアへ手を使わずにボールを渡す。チーム毎に使用するボールをバレーボールとバスケットボールの2種類から選ぶ。各回実施前に作戦タイムを設け、ボールの種類やペアの組み方等、タイムを縮めるための工夫をチームで話す。2回目は折り返し地点から、ボールをドリブルする人と片足跳びで戻る人にルールを変更して実施。



「新聞紙ボール運びリレー」では、皆で一生懸命楽しく取り組んでいた。チームで協力したことや、ルールを守りフェアプレーを実践できていたことを含め、全てオリンピックバリューに当てはまる素晴らしい取り組みだったと振り返る。生徒に感想を尋ねると、チームワークを発揮できた、楽しんだ、もっと改善できる場所があった等の回答が挙がった。次の座学の時間では、先生の競技人生について更に詳しく話していくので、皆にとってのオリンピックバリューも一緒に考えようと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：大川 真澄 先生 (体操／体操競技) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2024年10月24日(木)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



アトランタ1996大会の体操競技で出場したと改めて自己紹介。女子の体操競技の4種目である、床、跳馬、平均台、段違い平行棒について説明し、機会があれば直接見て知ってもらいたいと話す。オリンピックで実際に着用した衣装、ジャージ、IDカードと参加者に配られた記念メダルを披露。小学校6年生の時に地元の静岡に父と姉2人を残し、母と2人で競技をやるためだけに東京へ引越す。オリンピック出場の保証がない中で、家族全員で自分をサポートしてくれたことに本当に感謝をしている。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：チャレンジしたいことを書き出し、それを達成するため、その目標に近づくためにどんな行動等をするべきか考えよう。

発表：「部活動を頑張って、県大会で優勝を目標にしたい。そのために友達と一緒に目標に向かって練習をする」

「柔道の県大会優勝したい。そのために練習と私生活を意識する」

「合唱部で歌が上手になりたい。そのために肺活量を鍛えるために運動をする」

「三年生になったら学校でかくれんぼをするテレビ番組に出場したい。そのために校長先生に相談」等



皆に今後やりたいことと、やるべきことを沢山挙げてもらったが、そのためにできることをすぐに挑戦していこう。皆には今しか出来ないことが沢山あり、後悔する前に自分の心が動いた瞬間に行動することが大切である。毎日少しでも努力するとその小さな積み重ねが数年後には大きな差となり、その先の未来が見えてくると覚えてほしい。今後は、今日学んだオリンピックバリューを活かし、日々ベストを尽くしてみよう。自分の成長に繋げ、充実した学校生活を過ごしてほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：梅原 玲奈 先生 (スキー／フリースタイル)
【出場オリンピック／平昌2018冬季大会】
- **期 日**：2024年10月24日(木)
- **ク ラ ス**：2年2組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



平昌2018冬季大会に、フリースタイルのスキークロス種目出場したと自己紹介し、オリンピックバリューについて説明。運動の時間は、オリンピックバリューを意識しながら全員が全力で楽しく取り組もう。準備体操後、クラス全員が立った状態で周りの人とじゃんけんをして、勝った人は座り、残った人同士でじゃんけんを繰り返し、立っているのが最後の1人になるまでの早さを競うゲームに挑戦。最後の回は作戦タイムを設け、全員で早くする工夫を相談してから実施し、4秒で終わらせることに成功。

○主運動等



- 準備運動は、コミュニケーションゲームを実施。2～3人組を作り、実行役の人が目をつぶり、指示役の人はステージ上の先生がとっているポーズについて言葉のみで説明し、60秒の制限時間内に指示役が同じポーズになるように導くゲームに挑戦。
- 主運動は、障がい物リレーで班対抗でタイムと順位を競う。3つのマーカーの外側をジグザグに進み、折り返し地点を回り、ミニハードルを両足で跳び越えてスタート地点に戻ったら、次の人にタッチして、交代する。最後の回は、往路と復路の障がい物を逆の順番で行い、途中障がい物に触れてしまった人はコーンを1周回るルールに変更。



クラス全員が全力で楽しんで取り組んでくれたので、授業冒頭で伝えた約束事も、皆の力で達成できたと話す。チームメイトとより良いゴールを目指して努力し、相談して作戦を立てたり、ルールをしっかり守ったことは、全てオリンピックバリューに当てはまる行動だ。皆がベストを尽くしたからこそ楽しいものにすることができたと話す。次の座学の時間では、先生のオリンピックでの経験や、オリンピックバリューについてより詳しく伝えたい。皆で一緒に学ぶ時間にしよう話し、授業終了。

- **オリンピック**：梅原 玲奈 先生 (スキー／フリースタイル)
【出場オリンピック／平昌2018冬季大会】
- **期 日**：2024年10月24日(木)
- **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



スキークロスの映像を見ながら自己紹介。小学校4年生の時にスキーを始め、アルペンスキーに取り組む。中学校2年生で長野1998冬季大会を観戦して感動し、自分も同じ舞台立ちたいとオリンピック出場を目標とした。その後、日本1位やアジア1位を獲得したが、世界レベルには到達できず、アルペンスキーでのオリンピックへの出場は厳しい状況となった。諦めかけていた時に周囲の勧めでスキークロスに競技転向し、オリンピックに出場。25年と長い間かかったが、夢は諦めなければ必ず叶うと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：①学校生活や行事の中からテーマを1つ選び、オリンピックバリューにつながることを考えてみよう。

②今後の日常生活に活かしていきたいことを、オリンピックバリューの中から考えてみよう。

発表：エクセレンス：「体育祭の大縄を全力で取り組む」「リレーで最下位でも最後まで走り切る」「全力で取り組み諦めない」等
フレンドシップ：「選挙の立候補者をクラスで応援する」「部活動でチームワークを大切にする」「協力し給食を配膳する」等
リスペクト：「友達や関わる人をリスペクトする」「部活動を支えてくれる人に感謝する」「リレーでルールを守り全力」等



オリンピックバリューは特別なものではなく、皆の日常生活にあるものであることが分かったと思うと座学の授業を振り返る。自分が頑張っって取り組めば、周囲の人も一緒に動いてくれ、チームワークが生まれる。沢山の人に支えてもらえると感謝が自然とできる。オリンピックバリューの考え方を意識して生活することで自分も楽しくなり、目標も夢も叶って、人間として成長してきたと感じている。皆の生活や心や体も豊かになるので、是非この3つの価値を今後活かしてほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：梅原 玲奈 先生 (スキー／フリースタイル)

【出場オリンピック／平昌2018冬季大会】

■期 日：2024年10月24日(木)

■ク ラ ス：2年3組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



平昌2018冬季大会にスキークロスで出場したと自己紹介。オリンピックはメダルや順位のために競う大会と考える人もいるが、世界の国々が協力し、多様性があり平和な社会を実現するという大きな目的があると説明。今日の授業で、オリンピックが大切にする考え方や、先生が経験したオリンピックを伝えていくので、皆の生活に活かせるようになってほしいと話す。運動の時間では、全員が全力で取り組もうと授業の目的を確認。ストレッチ後、じゃんけんゲームとコミュニケーションゲームを行った。

○主運動等



主運動は、班対抗で障がい物リレーを実施し、タイムと順位を競う。3つのマーカーの外側をジグザグに進み、折り返し地点を回ったら、ミニハードルを両足で跳び越えてスタート地点に戻り、次の人にタッチし交代。アンカーがゴールし全員が座り手を挙げてゴールとする。最後は、往路と復路の障がい物の順番を反対にし、障がい物に触れてしまったら、コーンを1周回るルールに変更して実施。



授業冒頭に伝えた授業の目的の通り、全員が全力で取り組み、楽しむことができていた。それぞれが一生懸命努力し、チームで助け合いながら、ルールを守って取り組んでいた。これら全てがオリンピックバリューに当てはまる行動であり、皆は運動の時間にオリンピックバリューを体現することができた。次の座学の時間では、自分がオリンピックを目指したきっかけや、出場までの経験談を話すので、皆と一緒に自分にとってのオリンピックバリューとは何か考えようと話し、授業終了。

- **オリンピック**：梅原 玲奈 先生 (スキー／フリースタイル)
【出場オリンピック／平昌2018冬季大会】
- **期 日**：2024年10月24日(木)
- **ク ラ ス**：2年3組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



オリンピックで実際に着用したゼッケンを披露し、競技映像を見ながら自己紹介。アルペンスキーからスキークロスに競技転向しオリンピック出場を目指した当時、スキークロスに取り組み世界で活動する日本人選手は自分以外にいなかった。スタッフもコーチも居ない中、海外のライバル選手達が声を掛けてくれ一緒に練習をしていた。ライバル選手が強くなることに抵抗がなく、むしろライバルが強くなれば自分も強くなれるという、お互いを尊重し合いながら協力し切磋琢磨する姿勢に感銘を受けた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：①学校生活や行事の中からテーマを1つ選び、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

②これからの生活でオリンピックバリューがどのようなことに活かされるか考えてみよう。

発表：エクセレンス：「テスト勉強を全力で頑張る」「生徒会選挙に立候補した人も周りの人も皆で全力」「最後まで諦めない」等
 フレンドシップ：「合唱では皆で協力して練習する」「困っている人を助ける」「仲間を応援する」「仲間の失敗を励ます」等
 リスペクト：「文化祭に来てくれた保護者に感謝」「修学旅行で行く場所へ感謝」「給食を感謝して食べる」等



座学の時間を振り返り、皆の普段の生活の中にある3つのオリンピックバリューを沢山発表してくれて嬉しい。皆の心と体も、生活も人生も、より豊かにしてくれる考え方なので、今後もどんどん取り入れて、より楽しい人生を送ってほしい。今日はクラスが丸となり、授業が上手くいくように、先生に協力をしてくれたり、尊重して話をしっかり聞いてくれた。そのおかげで楽しんで授業をすることができたことと感謝の言葉を伝え、授業終了。

- オリンピック：山田 恵里 先生 (ソフトボール)
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、東京2020大会】
- 期 日：2024年10月25日(金)
- ク ラ ス：2年4組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



ソフトボール競技で、アテネ2004、北京2008、東京2020大会に連続で出場したと自己紹介。運動の時間は、全力で取り組むこと、皆で協力すること、ルールを守ることの3つを意識しながら楽しんで取り組もうと伝える。2人組でストレッチを行った後、体育館をスキップ、サイドステップ等を行いながらジョギング。その後、体育館のライン上のみを移動することができる「ライン鬼ごっこ」を実施。各班から鬼役を1人出し、タッチすると鬼が増え、最後まで残っている人数が多い班が勝つルールで実施。

○主運動等



主運動は「的狙いゲーム」を実施。3か所に実施エリアを作り、2班毎にのを狙って玉を投げ得点を競い合う。班毎の持ち玉を10球とし、交互に投げる。合計得点で勝敗を決め、的の中心の黄色部分が5点、赤が2点、青が1点。投げ方は自由とし、どの方向から投げて、相手の玉を弾くように投げてよい。練習タイムを設け、1回目を実施。途中で作戦タイムを設け、得点を取るためにどんな工夫をすれば良いか各班で話し合う。終了後、作戦の内容を尋ねると、生徒からは玉を上から投げて床にバウンドさせて中央の的を狙って投げた、投げ方を変えずに精度を上げるようにした等の回答が挙がる。



運動の時間では、皆が決められたルールを守り、どうすれば上手くいくのか班の仲間と協力して作戦を考え、全力で取り組んでいた姿を見ることができとても嬉しい。これは、皆がオリンピックバリューを意識しながら、体を動かし取り組むことができた証であると話す。座学の時間は、自分の経験談を通してオリンピックバリューについて話していきたい。皆にも意見を出し合ってもらい、身近にあるオリンピックバリューを発見してもらいたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：山田 恵里 先生 (ソフトボール)
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、東京2020大会】
- **期 日**：2024年10月25日(金)
- **ク ラ ス**：2年4組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



競技映像を見た後、3大会のメダルを披露。北京2008大会で金メダル獲得も、オリンピック実施競技からソフトボールが外れることが決定。その後、目標が見つからず競技を続けていた時期もあったが、周囲で支えてくれる人のために、感謝の気持ちを伝えようとやる気を取り戻し、全力で取り組んだ。13年後の東京2020大会でのソフトボール復活が決まった。すぐに諦めていたら東京2020大会での金メダル獲得も無く、今日皆と出会うこともなかった。最後まで諦めずに続けて良かったと感じている。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：学校生活の中でどのようにオリンピックバリューを活かせるか考えてみよう。

発表：エクセレンス：「テストや受験のために努力する」「最後まで諦めない」「新人戦で負けたら終わりなので一生懸命頑張る」等
フレンドシップ：「友達同士で思いやる」「学校行事はクラスの仲間と協力する」「体育祭でチームワークを大切にする」等
リスペクト：「ルールを守ることでお互いの生活を尊重できる」「多様性を認める」「部活動でフェアプレーを大切にする」等



グループワークでは、皆でオリンピックバリューについて沢山意見を出し合ってくれていたのが嬉しい。皆の発表に合った通り、今日学んだことは選手だけのものではなく、学校生活や日常でも大切にしたい考え方だ。夢や目標に向かう中で上手くいかず諦めなくなった時は、最後までベストを尽くす気持ちや何事にも感謝する気持ちを忘れずに頑張っていってほしい。今後は受験等で大変な時期だが、今日学んだ知識を最大限に活用して行動し、より有意義な学校生活に変えていこうと話し、授業終了。

- **オリンピック**：山田 恵里 先生 (ソフトボール)
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、東京2020大会】
- **期 日**：2024年10月25日(金)
- **ク ラ ス**：2年5組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



パリ2024大会で観戦した競技について問い掛けると、生徒からはサッカーや柔道等の回答が挙がる。先生が出場した東京2020大会後、ソフトボール競技がロサンゼルス2028大会で復活すると話す。ソフトボールは、野球のグラウンドの広さやマウンドまでの距離は半分程度であり、距離が近い分ピッチャーが投げる球も170km近い体感があるため、スピード感がある競技だと紹介。ランニング後、2人組でストレッチを行い、体育館のライン上のみを移動することができる「ライン鬼ごっこ」を実施。

○主運動等



主運動は「的狙いゲーム」を実施。3か所に実施エリアを作り、2班毎に的を狙って玉を投げ得点を競い合う。班毎の持ち玉を10球とし、交互に投げる。合計得点で勝敗を決め、的の中心の黄色部分が5点、赤が2点、青が1点。投げ方は自由とし、どの方向から投げて、相手の玉を弾くように投げてよい。練習タイムを設け、1回目を実施。途中で作戦タイムを設け、相手の玉を出す方法や、玉が的の中に入りやすい投げ方等、得点を取るためにどんな工夫をすれば良いか各班で話し合う。2回目と3回目は対戦相手を変更。



運動の時間を振り返り、全員がオリンピックバリューを考えながら取り組むことができたと伝える。「ライン鬼ごっこ」ではライン上を走るというルールをしっかりと守り、「的狙いゲーム」では仲間と協力して工夫を編み出し、全力で頑張っていて素晴らしいと伝える。次の座学の時間では、先生のオリンピックでの経験を通して、感じたことや学んだことを話していきたい。皆の学校生活でも、どのようにオリンピックバリューを活かすことができるか一緒に考えようと話し、授業終了。

- **オリンピック**：山田 恵里 先生 (ソフトボール)
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、東京2020大会】
- **期 日**：2024年10月25日(金)
- **ク ラ ス**：2年5組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介し、オリンピックで獲得した3つのメダルを披露。先生は諦めない気持ちを大切に努力を続け、3大会連続出場を達成した。引退した現在も、なりたい自分に近づきたいという気持ちで、常にベストを尽くしている。ソフトボールは団体競技であり、個人で頑張っても上手くいかない。仲間に対して思いやりを持った行動を取ったり、考えの違う人がいても理解する努力をして尊重し合い、積極的にコミュニケーションを取ることでチーム力を高め、自分も成長することができる。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：オリンピックバリューを学校生活に当てはめて、どのようなことが活かせるか考えてみよう。
 発表：エクセレンス：「出来るまで努力する」「テスト勉強で難しい問題でも諦めない」「授業を受ける姿勢」等
 フレンドシップ：「友達と協力する」「銀河祭や班行動」「分からない問題は教え合う」「チームワークを大切にする」等
 リスペクト：「新しい日々が来ることに感謝する」「挨拶をする」「先生や対戦相手に敬意を持つ」「校則を守る」等



グループワークでは、皆にとつてのオリンピックバリューを沢山発表してくれた。このような考え方は選手に限らず、誰にも深く繋がっていることに気付いたと思う。今後は仲間や家族に感謝とリスペクトの気持ちを持ち、何事も全力で取り組んでいこう。最後に、生徒から試合等で感じるプレッシャーについての質問を受け回答。ゴールに向かう途中、誰でも壁にぶつかることがある。誰かに相談すると心を軽くすることができる。何よりも、その場を楽しむ気持ちを忘れずにいてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■集合写真

・2年3組



・2年4組



■集合写真

・2年5組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



・2年4組



・2年5組



■修了証贈呈

